

# 提 言 書

持続可能な医療体制の構築と健康寿命の  
延伸について

令和 7 年 3 月

浜田市議会 福祉環境委員会



## 1 はじめに

福祉環境委員会では、「持続可能な医療体制の構築と健康寿命の延伸」をテーマに調査研究を行った。調査を通じて、医療現場の人手不足や働き方改革、高齢化社会による医療ニーズの多様化など、様々な課題が浮き彫りとなった。

また、市民の医療への理解促進と新たな人材育成が地域医療の基盤を強化し、行政の関わり方の変革が求められることを強く認識した。

これを踏まえ、浜田市が取り組むべきポイントを以下に整理し提言する。

## 2 提言

### (1) 江津市との取組や病病連携について

#### 現状の問題点

島根県が定める保健医療計画では、浜田市及び江津市は浜田圏域として定められており、両市の連携が求められるが、役割整理は十分にできておらず、医療資源の最大化が求められる。また、圏域の中核をなす浜田医療センターの経営も厳しい状況にあり、今後も診療科の偏在が進むと考えられる。

#### 提案

- ・江津市との連携強化を目的に定期的な会議を設け、課題を共有するとともに早期解決を図れるよう体制構築をすること。また、両市において地域医療のあり方を共有し、共通目標を設定した上で事業推進を図ることも効果的と考える。
- ・病院間での役割を明確化し、診療科ごとの協力体制を強化することが求められる。医療機関間での情報共有を進め、患者に適切な医療を提供できるシステムを構築すること。
- ・保健所（県）や関係機関と連携し、地域医療の一体化に向けた調整を行政主導で進めること。
- ・県西部唯一の3次救急医療機関である浜田医療センターの経営改善を進めるため、具体的な財政支援や行政の関わり方を検討すること。

## (2) 医療DXの取組について

### 現状の問題点

中山間地では高齢化に伴う移動手段が大きな課題で、医療機関のアクセス改善が求められているが、医療MaaSなどの新たな手法の導入実績はない。また、通信環境整備は進めているが、市全体としてのDXは進んでいない。

### 提案

- ・通院の不便さを解消するため、医療MaaSの導入は有効である。ドクターカーや地域専用タクシー、デマンド型交通を利用した実証実験に取り掛かり、まずはこの地域におけるその有効性を検証されたい。
- ・加えて、オンライン診療の導入など、通院負担を軽減する策を同時に検討する必要がある。診察がオンラインで行われる際の\*インタラクティブシステムについても国保診療所の一部からでも導入を検討されたい。
- ・上記システムの導入を進める場合、\*NPが必要となる。育成支援制度の新設を検討されるとともに、その誘致活動にも積極的に取り組まれたい。

※**インタラクティブシステム**…人の動きに合わせて映像が変化する画期的な投影技術

※**NP（ナース・プラクティショナー）**…日本看護協会が創設を目指している米国等のような一定範囲の診断や治療などを行うことができる新たな看護の国家資格

### (3) 診療科の偏在に対する市民の理解について

#### 現状の問題点

診療科の偏在をはじめとする地域医療の実態についての理解が市民と医療関係者の間で大きく乖離している。

#### 提案

・ 地域における診療科の偏在が招く医療サービスの低下は避けなければならないが、一方で、医師確保の難しさに対する理解を深めてもらうことも必要である。浜田の地域医療を守る会を対話の場・相互理解の場として活用するとともに、その場の議論等を広報活動によって市民に対し情報提供することで、理解促進を行うこと。

## (4) 医師及びコメディカル人材の獲得に対するアプローチについて

### 現状の問題点

医師や\*コメディカル人材の地元確保が困難であり、地域外からの人材に依存している。また、医療人材教育機関の閉鎖や定員割れ、市外流出なども大きな課題である。

※ **コメディカル**… 医師や歯科医師の指示の下に業務を行う医療従事者（看護師、保健師、助産師、薬剤師、臨床検査技師、衛生検査技師、臨床工学技士、放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、管理栄養士、義肢装具士、医療事務）

### 提案

- ・奨学金制度の条件については、卒業後の地元勤務期間等について緩和することも念頭に、持続可能な人材確保のための制度構築に努められたい。
- ・総合診療医のニーズが今後高まることを踏まえ、育成支援を進め、地元医師を積極的に育成することに重点を置いた施策を展開すること。石見地域での取組の可能性も念頭に置かれたい。
- ・医師の誘致制度は必須であるが、ワークライフバランスが判断基準とされることから、教育環境や暮らしやすいまちづくりの整備を一体的に推進し、長期的に地域で働ける環境を整備すること。
- ・開業医の事業承継支援における開業や後継者育成、医師の研修及びキャリア形成をサポートできる資金的支援についても検討されたい。

## (5) 健康寿命の延伸に係る取組の在り方について

### 現状の問題点

当市の平均自立期間は、男性が県内ワースト 2 位、女性は県内ワースト 1 位となっている。特に女性の喫煙、毎日飲酒、朝食欠食等の割合が県平均と比べ高く(2022年特定健康診査等データ集計結果)、改善に向けた取組が求められる。

### 提案

- ・ \* S I B (ソーシャル・インパクト・ボンド) など新しい資金調達方法を活用して、健康寿命延伸のプロジェクトを進めること。
- ・ \* フレイル予防に効果的な健康体操や運動イベントをまちづくり活動と組み合わせながら積極的に開催し、全市民への参加呼びかけを強化すること。はまチャレなどで実施されているインセンティブは有効であることから、その拡充についても検討されたい。
- ・ 若い時からの食事や運動などの生活習慣管理の積み重ねが将来の健康寿命に大きく影響するとされている。若い世代、働く世代を意識した取組が重要である。具体的な健康指標を提示することも有効と考える。
- ・ 医療、福祉、健康寿命延伸を一元的に考え、地域全体での調整及び支援を行う体制を強化すること。

※ **S I B (ソーシャル・インパクト・ボンド)** …自治体や民間事業者、資金提供者などが連携して社会問題の解決を目指す行政手法(行政から民間へ事業を委託するスキームの1つ)。従来型の公共事業とは異なり、成果報酬型の仕組みを持つため、パフォーマンス向上やコスト削減が期待できる。

※ **フレイル(虚弱)予防**…健康な状態と要介護状態の中間の段階を指す。「身体的フレイル」「精神・心理的フレイル」「社会的フレイル」の大きく3つの種類に分かれる。フレイルのメカニズム(フレイルサイクル)を良く理解し、正しい介入方法を行い、フレイルに陥らないようにすることやフレイルが進行するのを防ぐこと。

### 3 おわりに（総括と結論）

浜田市の地域医療体制強化と健康寿命延伸に向けた取組は、行政主導のもと、医療機関との連携はもちろんのこと、地域住民との協力を得ながら進めていく必要がある。各施策が連携し、地域全体で支え合う体制を構築することが、持続可能な地域社会の実現につながる。具体的なアクションを着実に進め、次のステップに向けて一層の努力を続けられることを期待する。

また、これらの取組については、今後、事業評価等を通じてモニタリングし、所管委員会も共に課題解決に向けて尽力することを申し添える。

最後に、当委員会や所属委員の訪問、意見交換等にご理解とご協力をいただいた全ての方々に感謝しお礼申し上げます。

## 4 会議等の開催状況

令和5年度

	日付	内容
1	12月1日	取組課題の検討協議
2	12月12日	取組課題の検討協議
3	12月19日	取組課題の検討協議
4	1月25日	行政視察について協議
5	2月21日	<b>株式会社イーグリッドとの意見交換会（医療MaaS）</b> <b>島根大学医学部附属病院</b> <b>総合診療医センターとの意見交換会（総合診療医育成）</b>
6	2月24日	<b>島根県立大学 山下理事長による議員研修会（医療MaaS）</b>
7	2月26日	行政視察の振り返り
8	3月6日	行政視察の振り返り

令和6年度

	日付	内容
1	5月16日	取組課題に係る協議（地域井戸端会での様子を共有）
2	5月21日	<b>佐藤 誠浜田市医療統括監との意見交換会</b>
3	6月17日	行政視察について協議
4	6月26日	行政視察について協議
5	7月22日	<b>福岡地域戦略推進協議会との意見交換会（SIBによる資金調達）</b> <b>Rorenとの意見交換会（持続可能な活動）</b>
6	8月6日	行政視察の振り返り
7	10月1日	<b>浜田圏域老人施設協議会との意見交換会</b>
8	11月28日	<b>浜田医療センターとの意見交換会</b>
9	12月2日	提言に向けた協議
10	1月15日	<b>浜田保健所との意見交換会</b>
11	1月28日	提言に向けた自由討議
12	2月25日	提言に向けた自由討議
13	3月6日	提言に向けた自由討議、決定



## 福祉環境委員会

委員長	三浦	大紀
副委員長	肥後	孝俊
委員	柳樂	真智子
委員	串崎	利行
委員	上野	茂
委員	布施	賢司
委員	川神	裕司